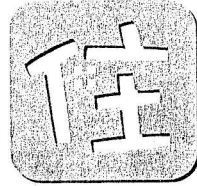


愛着ある家具をリメイク

ライフスタイルの変化などで、使いづらくなった家具のサイズなどを調整するサービスが広がっている。座卓の高さを変えてダイニングテーブルにしたり、使わなくなったたんすを本棚に作り替えたり。愛着のある家具を使い続けられ、高齢者に好評という。



兵庫県西宮市の女性(87)は3年前、60年以上前に嫁入り道具として両親から贈られた鏡台の高さを家具店で変えてもらった。正座して使う鏡台に50センチの脚をつけ、イスに座って使えるようにした。脚をつける費用は約4万円。「足腰が弱って正座が難しくなった。使い続けられてうれしい」

この鏡台を調整したのは、全国で7店を展開する家具製造販売「家具の富士」(兵庫県)。家具のサイズなどを調整するサービスは「リメイク」とも呼ばれ、高齢者を中心に

「続けて使える」高齢者に好評

注文が年々増えている。

料金は作業の内容により異なる。イスの脚のカットだけなら3000円程度。座卓をダイニングテーブルにする場合は5万〜7万円。家具の運送費もかかる。イスが片道2000円から。テーブルは同4000円から。調整にかかる期間は2〜4週間。

同社の森下大さんは、「大幅な調整は決して安いとは言えない。それでも長年使って愛着があったりして、使い続

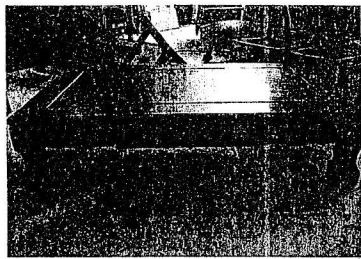
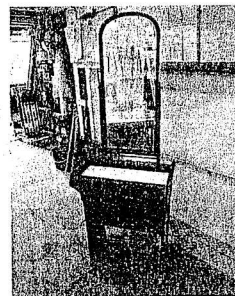
けたい人は多い」と話す。

子どもの独立などで、家具の使い方を直す例もある。首都圏などに5店ある洋家具製造販売「ダニエル」(横浜市)は、修理や調整を扱うサービス「家具の病院」を展開。担当者が依頼者宅を訪問し、家具の状況や具体的な要望を聞きながら見積もりを行う。

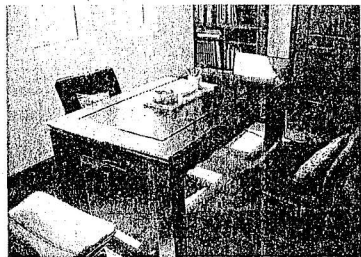
大阪市の60代の夫婦は、6人がけのテーブルの天板の長さが必要に応じて変えられる



当初は床に座って使う鏡台だったが脚をつけて50センチ高くし、いすに座って使えるようにした



縦80センチ、横150センチ、高さ30センチの座卓を高さ70センチのダイニングテーブルにした



*写真は「家具の富士」提供

■店に依頼する時の注意点

- ・相談や依頼をする際は家具の写真やイラストなどを送り、材質や状態などを具体的に伝える
- ・調整にかかる手間によって料金が異なる。予算を伝え、見積もりを取って費用を確認する
- ・依頼する場合、持ち込み可能か、引き取りに来てもらえるか、運搬の方法や料金を確認する(森下さん、咲寿さんの話を基に作成)

ようにした。子ども3人が独立して、普段は大きなテーブルが必要なくなったからだ。長方形のテーブルの天板中央部分を40センチ切って短くし、天板裏側にレールを付けて中央部分を取り外せるようにし

た。子どもが訪れた時は、中央部を開いて板をはめることで長くして使う。約30万円かかったが、「40年ほど使っていたもので、何とか使っていたかった」と言う。

同社の咲寿義輝さんは、「一軒家に住む高齢の夫婦が、子どもの独立を機に収納が付くタイプのマンションに住み替え、家具の処分に悩むことが多い」と話す。

同社では、使わなくなった洋だんすの奥行きを短くし、内側に棚板をつけて書棚に作り替えたことがあるという。調整を依頼する際は注意が必要。表参照。咲寿さんは、「材質や形などによって、調整できない家具もある。家具の状態を業者に実際に見てもらうなどして、相談を慎重に重ねてほしい」と話す。